

は $100\Omega\text{m}$ 以上の高見掛比抵抗異常を示し、中央部の浅部にも $50\Omega\text{m}$ 以上の高見掛比抵抗異常がある。断面中央部の深部から南東部にかけては、 $20\Omega\text{m}$ 以下の低見掛比抵抗が広がっている。断面中央部の Koudiat Soda 鉱床付近には 5mV/V 以上の弱い測定分極率異常がある。

・ C16 断面 (図 49)

C15 断面の北東 400m を北西から南東に横断する断面である。断面北西部は $100\Omega\text{m}$ 以上の高見掛比抵抗異常を示し、中央部から南東部にかけて $10\Omega\text{m}$ 以下の低見掛比抵抗異常が広がっている。本断面に有意な測定分極率異常は認められない。

・ C17 断面 (図 50)

C16 断面の北東 500m, Koudiat Tilette 鉱徴地付近通って北西から南東に横断する断面である。断面北西端、中央部及び南東端には $50\Omega\text{m}$ 以上の高見掛比抵抗異常があり、これらの異常の間には $10\Omega\text{m}$ 以下の低見掛比抵抗異常がある。本断面には 4mV/V 以上の弱い測定分極率異常があるものの有意な異常とは認められない。

・ 見掛比抵抗平面図 n=1 (図 51)

調査範囲北西側の Jebel Ech Chied 丘陵に沿って $100\Omega\text{m}$ 以上の高見掛比抵抗が分布し、南西部ではこの高見掛比抵抗が南東側へ張り出している。調査範囲南東 El Aroussa 平野側で見掛比抵抗は低くなり、 $10\Omega\text{m}$ 以下の低見掛比抵抗異常も多い。調査範囲南西端と北東端も $10\Omega\text{m}$ 以下の低見掛比抵抗となっている。調査範囲南西部の C4 測線付近の Bazina Kebira 鉱徴地、C7-80 付近の H'Zamel Assoued 鉱徴地及び調査範囲北東部の Koudiat Soda 鉱床付近は北西側高見掛比抵抗の張り出し部に相当し、中央部の Koudiat Safra 鉱床は高見掛比抵抗と低見掛比抵抗の境界部に相当する。北東部の Koudiat Soda 鉱床付近と Koudiat Tilette 鉱徴地に近い C17 測線付近の間には $10\Omega\text{m}$ 以下の低見掛比抵抗異常があり、複雑な比抵抗構造を示唆している。

・ 見掛比抵抗平面図 n=2 (図 52)

n=1 と同様な見掛比抵抗分布を示し、n=1 に比べて全般に見掛比抵抗は低くなり、調査範囲北東部の北西側丘陵部にある $100\Omega\text{m}$ 以上の高見掛比抵抗の範囲に分布が小さくなっている。

・ 見掛比抵抗平面図 n=3 (図 53)

さらに、全般に見掛比抵抗は低くなり、調査範囲北東部では Koudiat Soda 鉱床付近等の一部を除き、 $100\Omega\text{m}$ 以上の高見掛比抵抗は認められない。一方、南東の El Aroussa 平野側では $10\Omega\text{m}$ 以下の低見掛比抵抗は基線 C0 付近まで広がっている。

・ 見掛比抵抗平面図 n=4 (図 54)

概ね n=3 と同様な見掛比抵抗分布を示すが、全般にさらに見掛比抵抗は低くなっている。

・ 測定分極率平面図 n=1 (図 55)

調査範囲北東部の Koudiat Soda 鉱床付近に 5mV/V 以上の弱い測定分極率異常があり、調査地南西部の H'Zamel Assoued 鉱徴地に相当する C7-90 付近と北東部の C14-60 付近にも 4mV/V 以上のさらに弱い測定分極率異常がある。調査地中央部の Koudiat Safra 鉱床付近と Koudiat Tilette 鉱徴

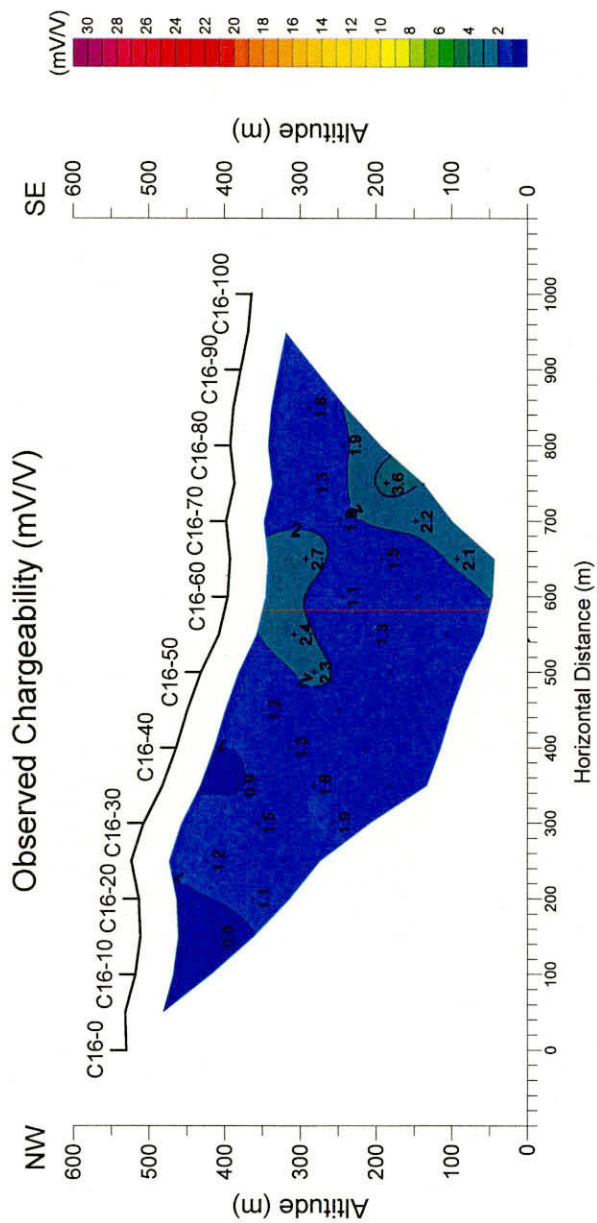
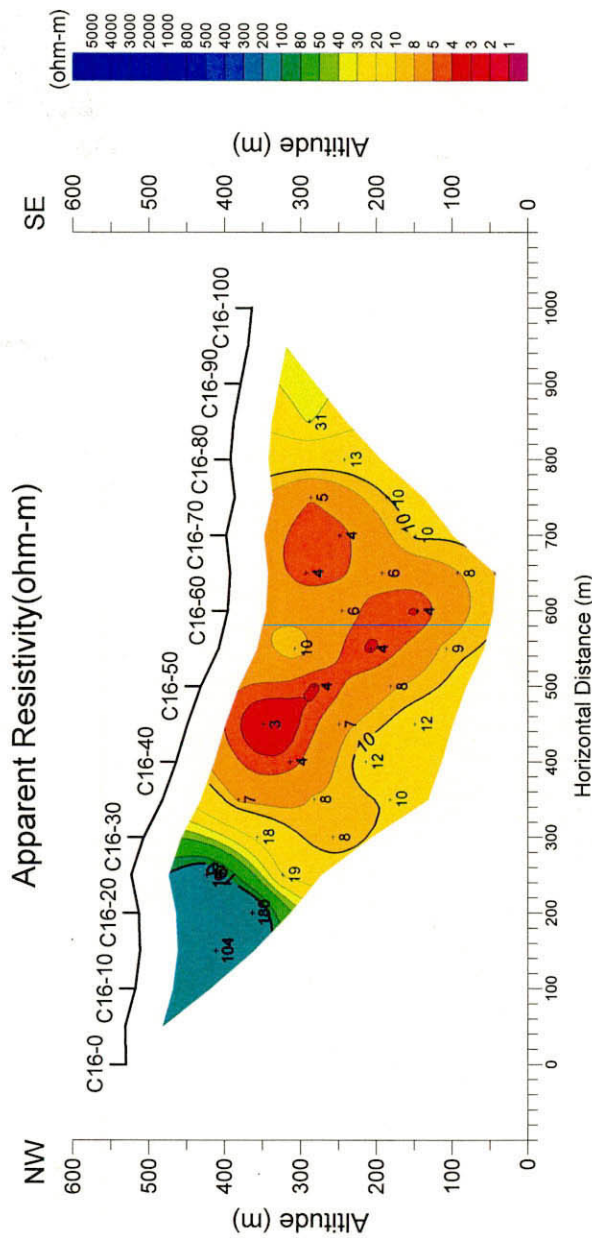


図 49 見掛比抵抗・分極率断面図 (測線 C16)

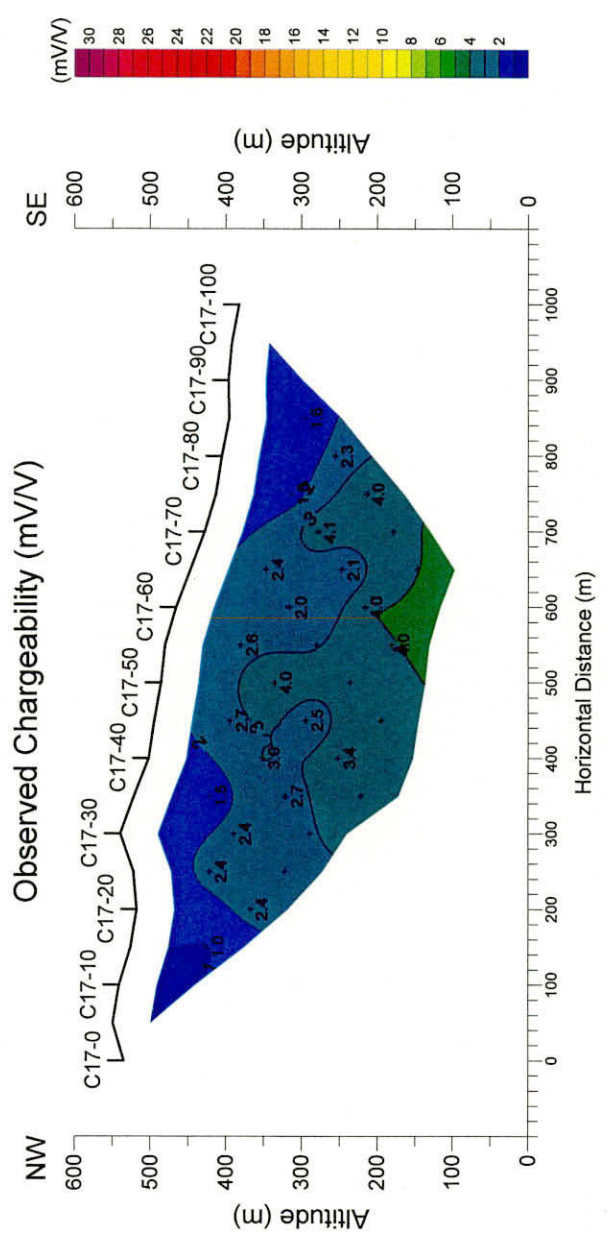
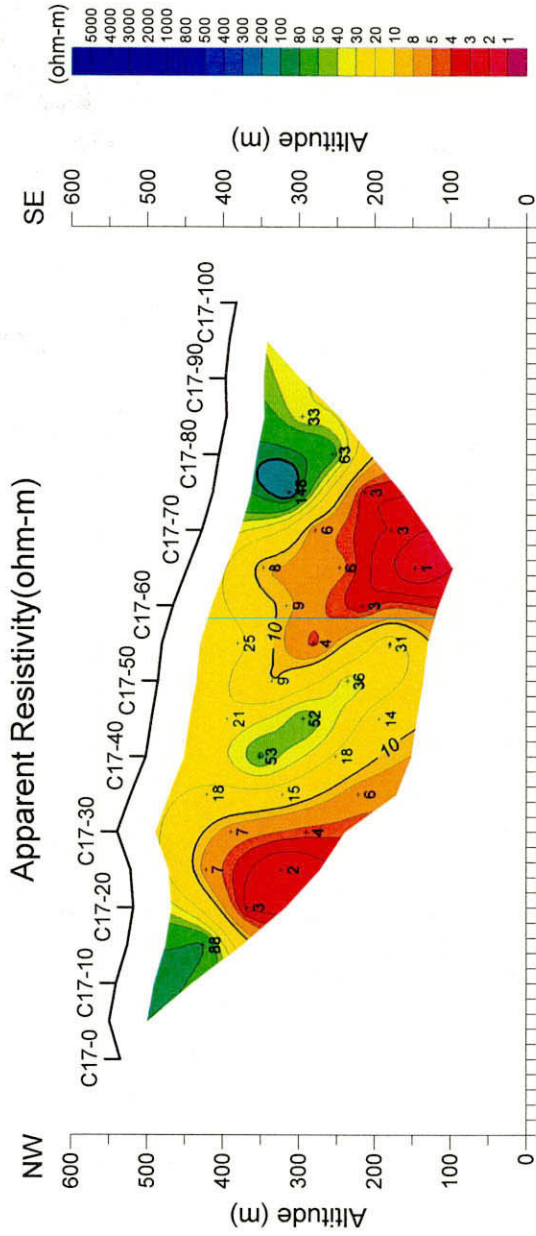


图 50 見掛比抵抗・分極率断面図 (測線 C17)

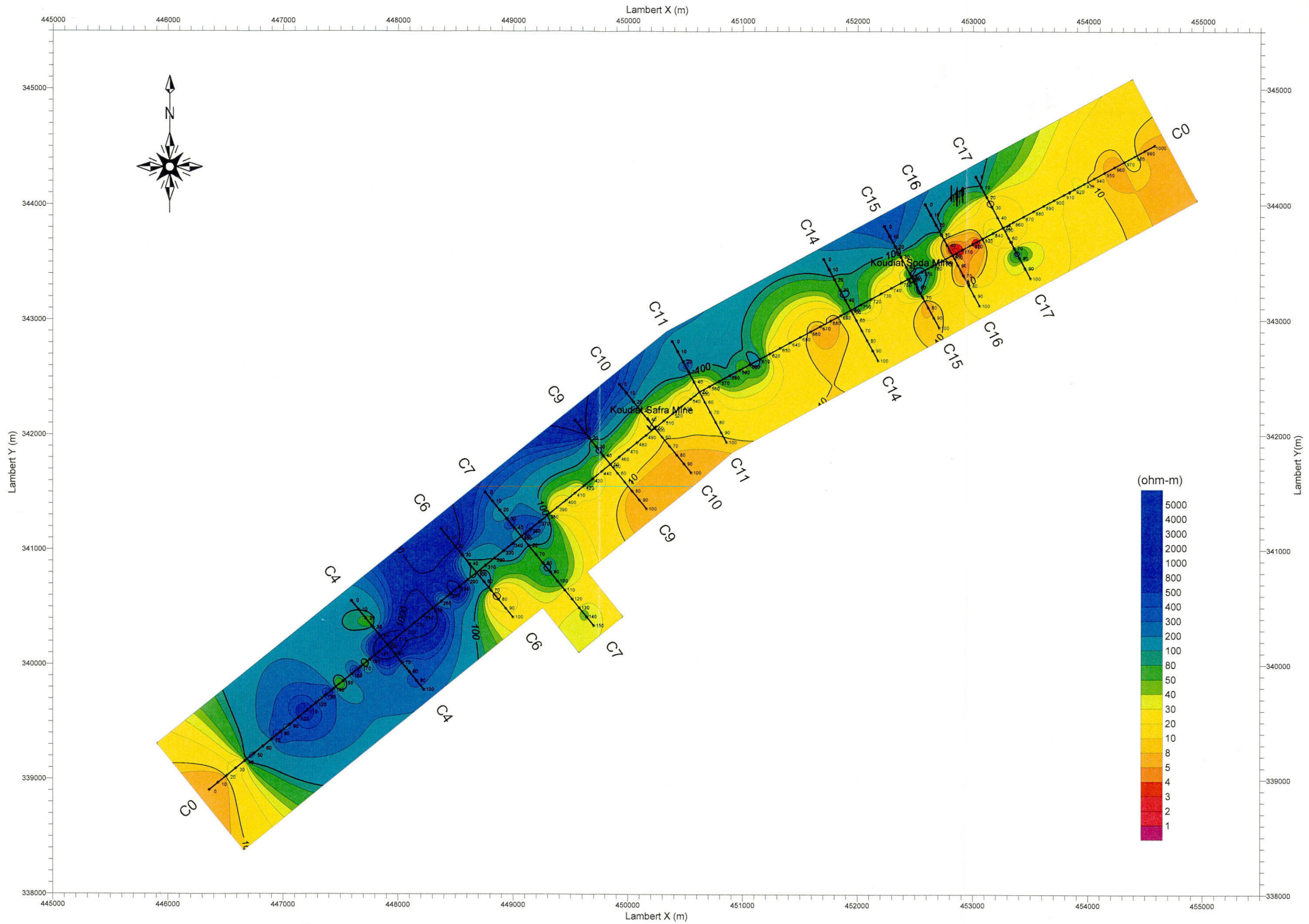


図 51 バジナ・ケビラ地区見掛比抵抗平面図 (n=1)

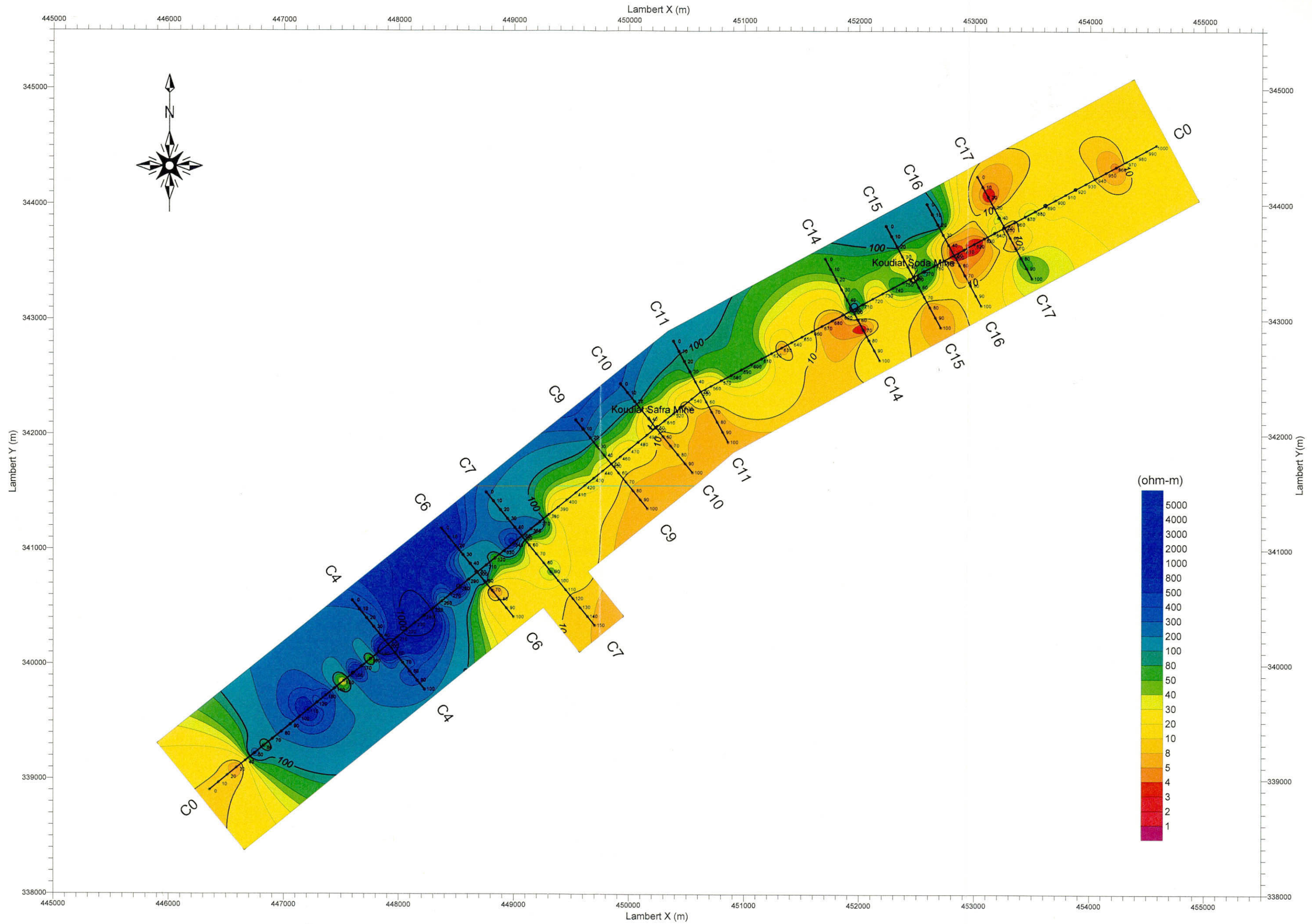


図 52 バジナ・ケビラ地区見掛比抵抗平面図 (n=2)

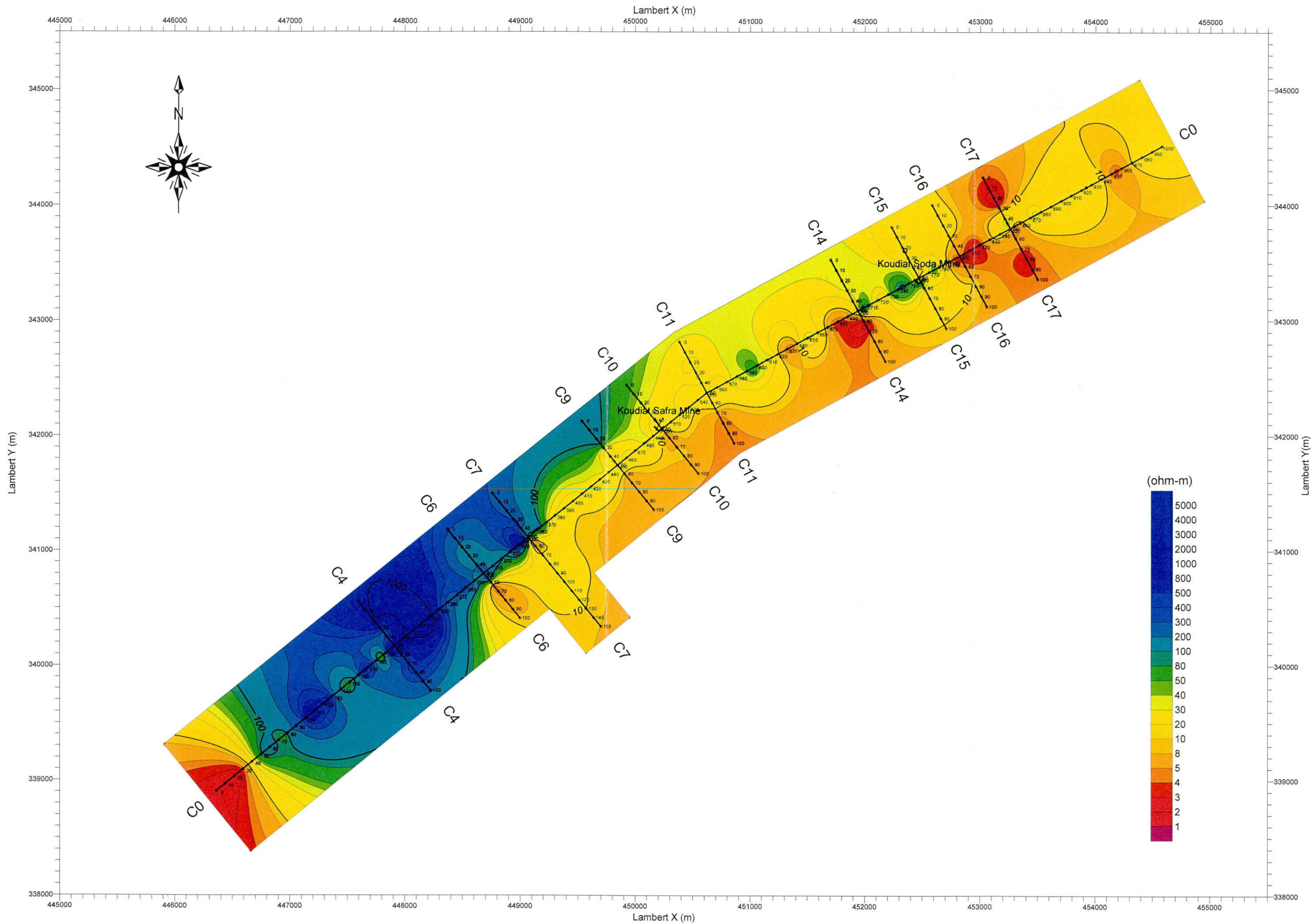


図 53 バジナ・ケビラ地区見掛比抵抗平面図 (n=3)

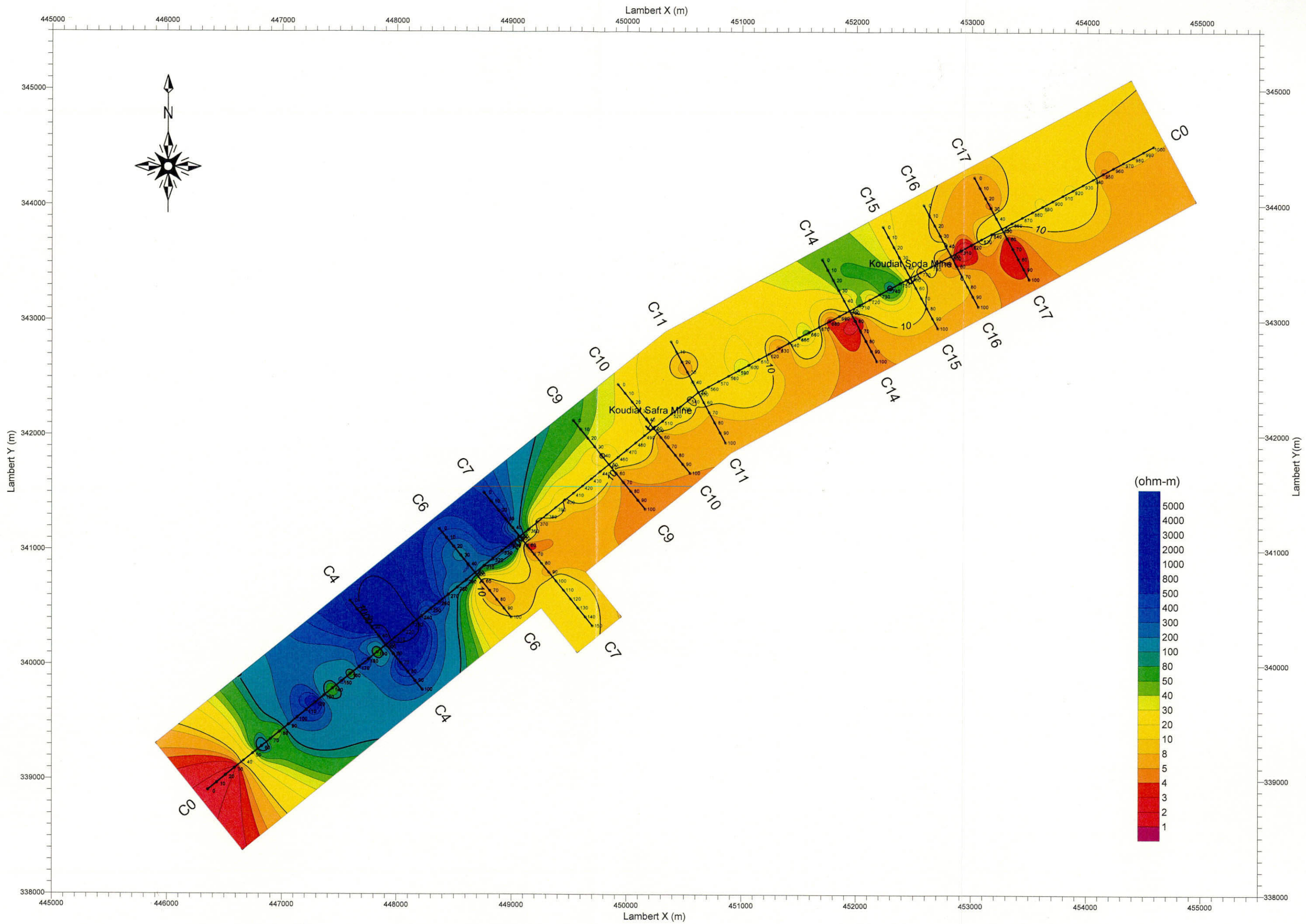


図 54 バジナ・ケビラ地区見掛比抵抗平面図 (n=4)

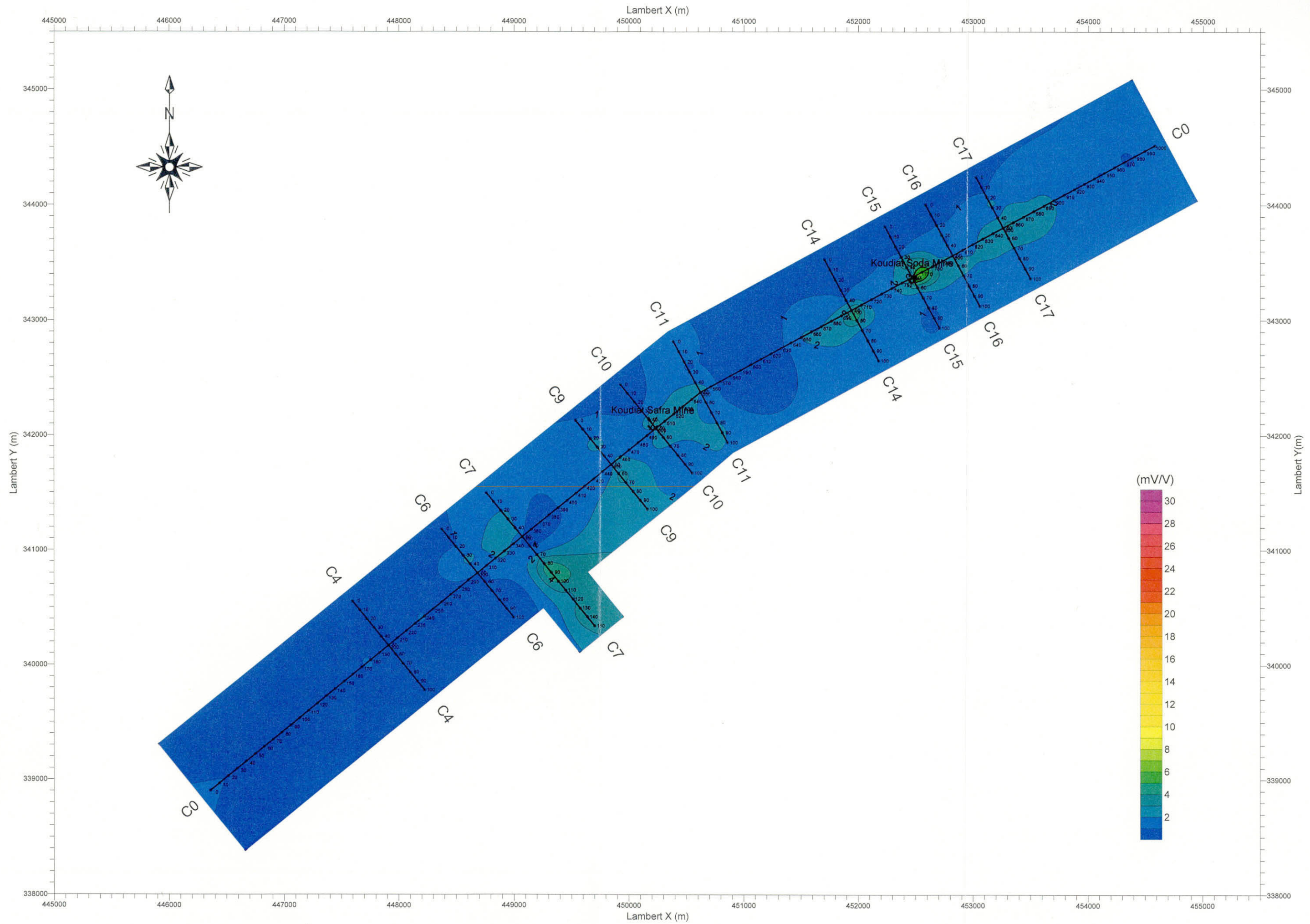


図 55 バジナ・ケビラ地区分極率平面図 (n=1)

地に近い北東部の C17 測線も周囲に比べて測定分極率が高くなる傾向があるが、Bazina Kebira 鉦徴地に近い C4 測線付近には有意な異常は認められない。

・測定分極率平面図 n=2 (図 56)

概ね n=1 と同じ様な測定分極率分布を示す。

・測定分極率平面図 n=3 (図 57)

概ね n=2 と同じ様な測定分極率分布を示すが、北東部の C14-60 付近の弱い測定分極率異常は消失した。

・測定分極率平面図 n=4 (図 58)

Bazina Kebira 鉦徴地を除く鉦徴地周辺は周囲より測定分極率が高い傾向があるものの、H'Zamel Assoued 鉦徴地に相当する C7-90 付近以外に測定分極率異常は認められない。

② 解析比抵抗及び分極率

本地区の解析比抵抗は $0.1 \sim 1,127 \Omega\text{m}$ の範囲にあり、その平均値は約 $80 \Omega\text{m}$ である。

調査範囲の比抵抗分布は南西端を除く南西部、中央部、北東端を除く北東部に大別できる。南西部は $100 \Omega\text{m}$ 以上の高比抵抗が浅部から深部まで広く分布し、南西に向かうほど南東側へ広がっている。この高比抵抗は三畳系のドロマイトの分布と調和的である。中央部は $10 \Omega\text{m}$ 以下の低比抵抗が深部に広がり、浅部では北西側で南西部の高比抵抗が張り出している。この低比抵抗は白亜系、第三系、第四系の砂岩や礫岩の分布と調和的である。北東部では小規模の高比抵抗異常や低比抵抗異常が複雑に入り組んでいる。南西端と北東端は $20 \Omega\text{m}$ 以下の低比抵抗を示す。

南西部の H'Zamel Assoued 鉦徴地に相当する C7-90 付近、中央部の Koudiat Safra 鉦床付近、北東部の Koudiat Soda 鉦床付近は北西側の高比抵抗が東側に張り出した先端の小規模な高比抵抗異常が存在する。

本地区の解析分極率は最大でも 8mV/V 程度、平均では 2mV/V 前後と全体的に低い値を示す。有意な測定分極率が取得できていない箇所では、計算上、負の分極率も推定されている。南西部の H'Zamel Assoued 鉦徴地に相当する C7-90 付近と北東部の Koudiat Soda 鉦床付近にだけ 5mV/V 以上の弱い小規模な分極率異常があり、南西部の C6-30 付近、中央部の Koudiat Safra 鉦床付近及び北東部の C14-60 付近にも 4mV/V 以上のさらに弱い小規模な分極率異常が存在する。

以下に、各測線の断面図及び標高 200m, 300m, 400m の平面図に認められる概略的な傾向について述べる。

・C0 断面 (図 59)

調査範囲を南西から北東に縦断する断面である。本断面の比抵抗分布は、C0-390 付近を境に南西側は $100 \Omega\text{m}$ 以上の高比抵抗、北東側は $50 \Omega\text{m}$ 以下の低比抵抗が分布する。北東側でも Koudiat Soda 鉦床付近には浅部に $100 \Omega\text{m}$ 以上の高比抵抗異常がある。これらの高比抵抗は三畳系のドロマイトの分布に対応する。断面南西端、C0-390 付近、C0-530~630 付近、C0-680 付近、C0-810~850 付近、C0-950~980 付近には $10 \Omega\text{m}$ 以下の低比抵抗異常がある。これらの低比抵抗異常は

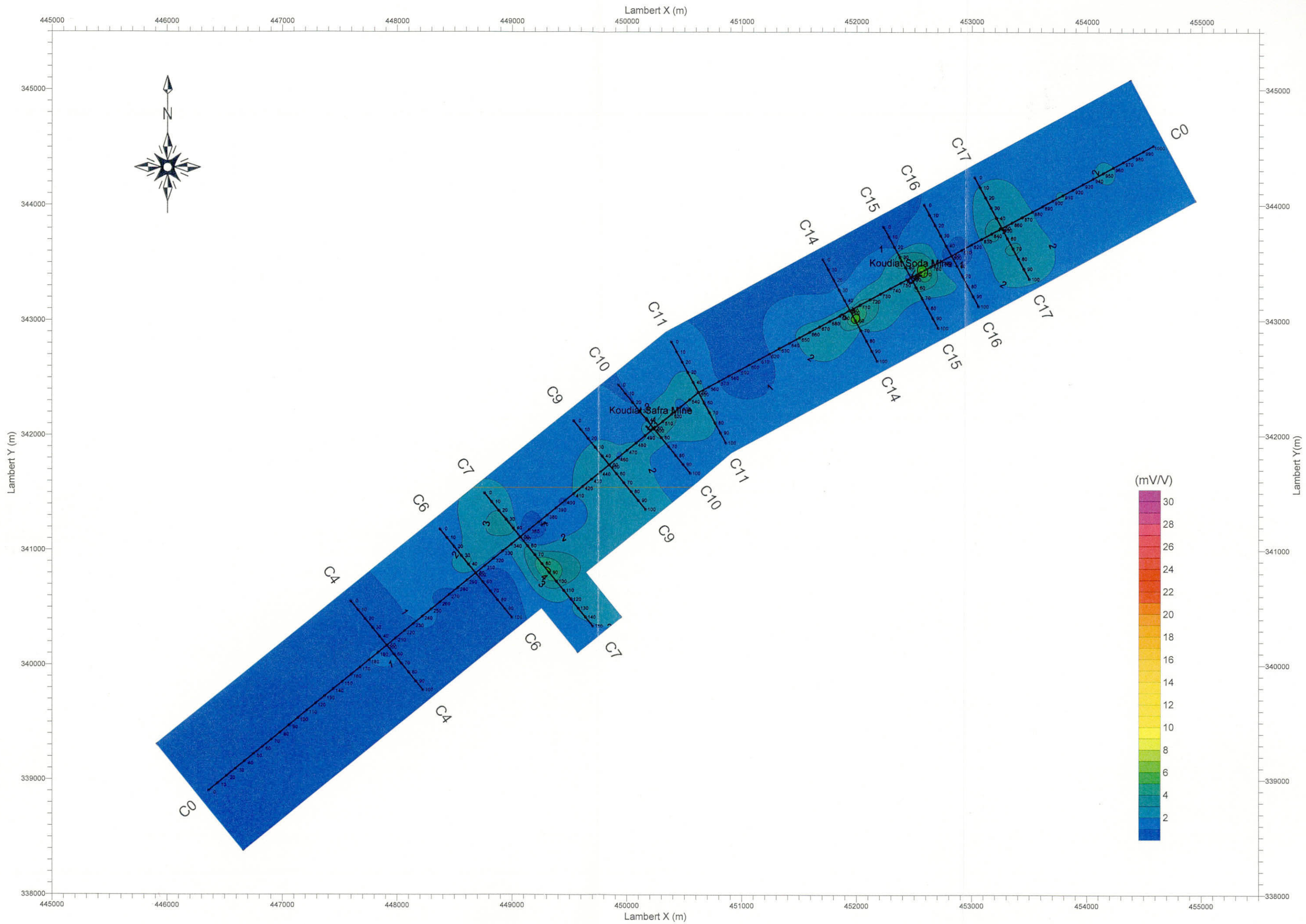


図 56 バジナ・ケビラ地区分極率平面図 (n=2)

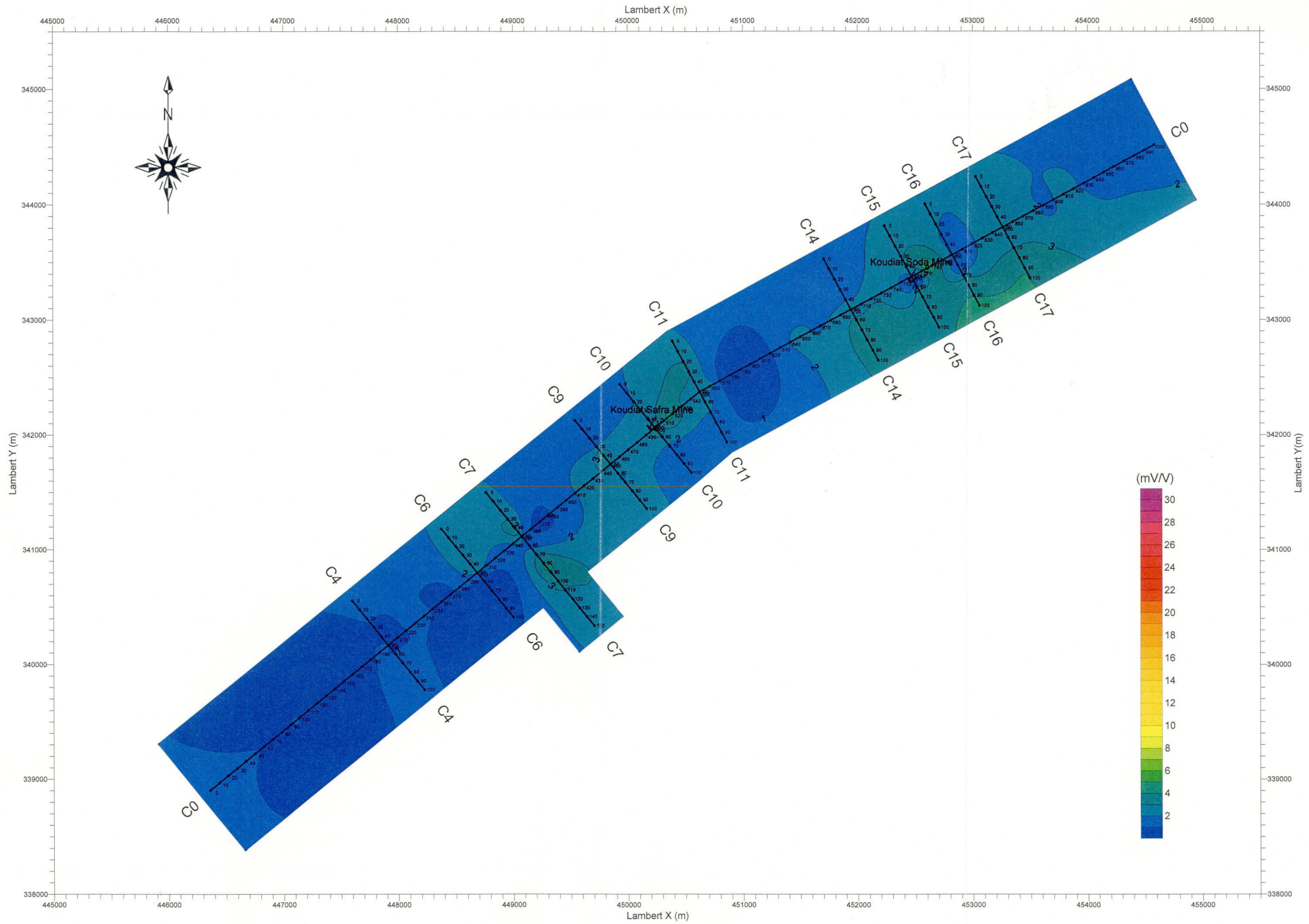


図 57 バジナ・ケビラ地区分極率平面図 (n=3)

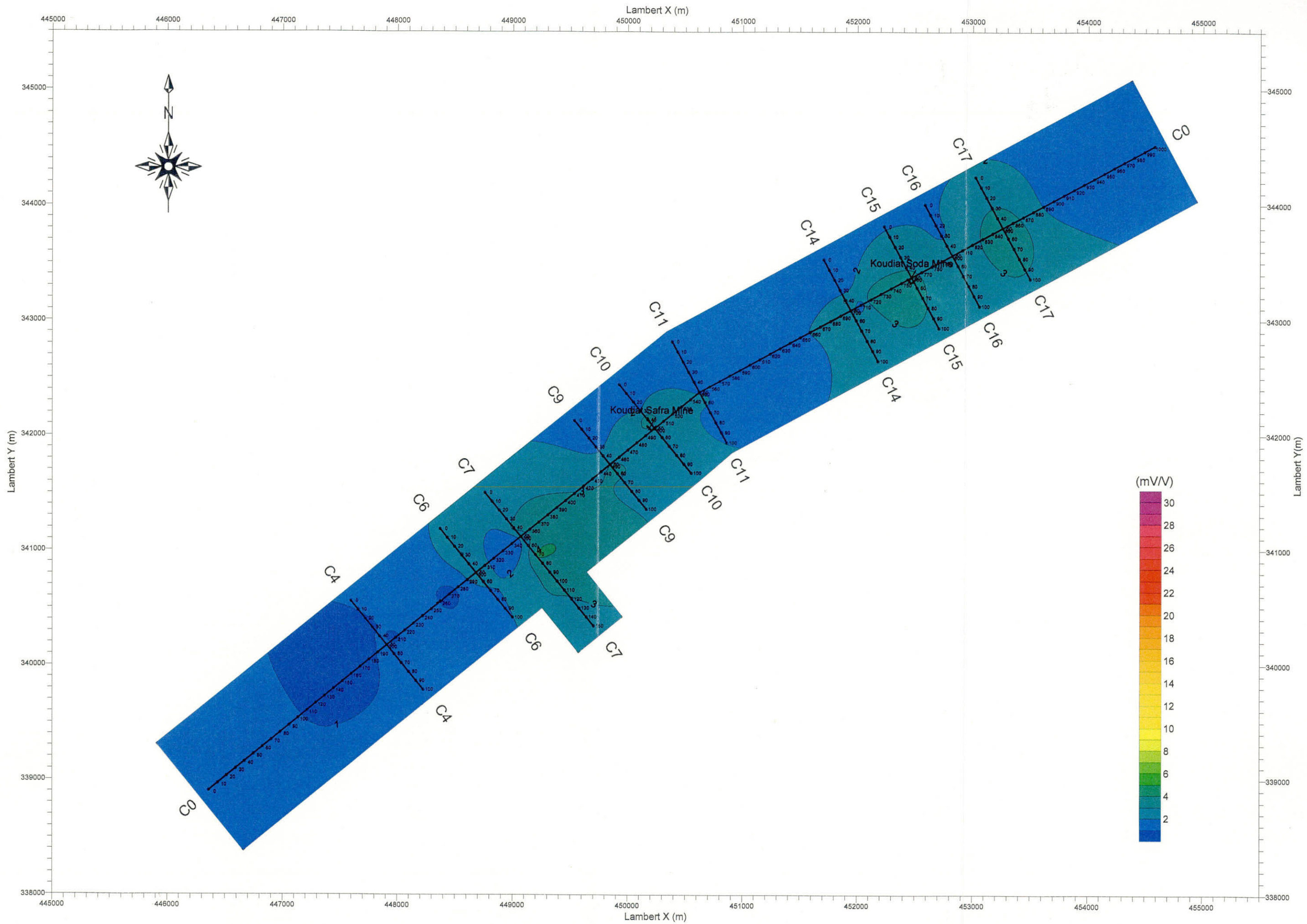


図 58 バジナ・ケビラ地区分極率平面図 (n=4)

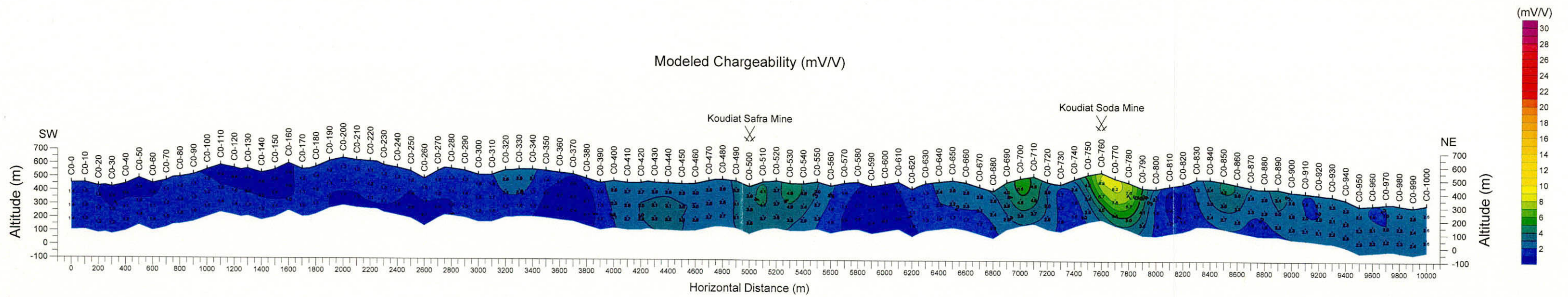
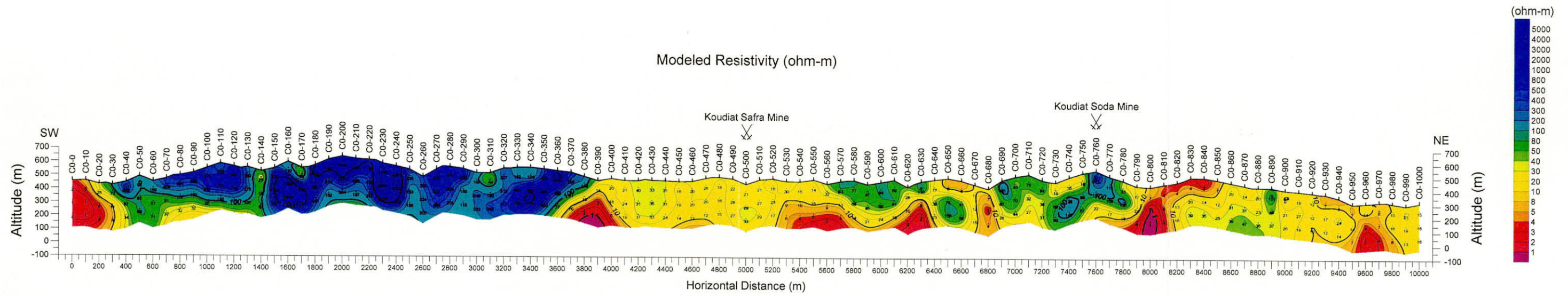


図 59 比抵抗・分極率シミュレーション断面図 (基線 C0)

地形的に谷部に相当し、深部から浅部に向かって延びているものが多く、隣接する高比抵抗との間に明瞭な比抵抗不連続線を生じていることから、断層に伴う破碎帯である可能性がある。

断面北東部の Koudiat Soda 鉱床付近の浅部に 5mV/V 以上の弱い分極率異常があり、その南西 700m の C0-700 付近の浅部にも小規模な 5mV/V 以上の弱い分極率異常がある。中央部の Koudiat Safra 鉱床付近も周囲よりは分極率が高い傾向があり、浅部には小規模な 4mV/V 以上の弱い分極率異常がある。

・ C4 断面 (図 60)

調査地南西部の Bazina Kebira 鉱徴地付近を通り、北西の丘陵部から南東の平野部に向かって横断する断面である。南東部斜面の C4-80 付近を除き 100 Ωm 以上の高比抵抗が広がる。特に、中央部の C4-40~50 付近は深部から浅部に向かって 10.00Ωm 以上の高比抵抗異常が延びている。本断面には有意な分極率異常は認められない。

・ C6 断面 (図 61)

C4 断面の 1km 北東を北西の丘陵部から南東の平野部に向かって横断する断面である。断面南東部の C6-80 付近の比抵抗不連続線を境に、南東の山麓側が 10Ωm 以下の低比抵抗異常、北西の丘陵側が 100Ωm 以上の高比抵抗となっている。高比抵抗は三畳系のドロマイト、低比抵抗は第三系の堆積岩類、比抵抗不連続線は三畳系と第三系の接触部に対比されると考えられる。高比抵抗の中にも、C6-50 付近の浅部と C6-40 付近の深部に 100Ωm 以下の低比抵抗異常が認められる。

本断面では、C6-30~40 の深部に 4mV/V 以上の弱い分極率異常を認めるだけである。

・ C7 断面 (図 62)

C6 断面の 500m 北東の H'Zamel Assoued 鉱徴地付近を北西の丘陵部から南東の平野部に向かって横断する断面である。断面北西部の C7-60 より丘陵側は三畳系ドロマイトと考えられる 100Ωm 以上の高比抵抗異常が分布する。中央部から南東部にかけては、第三系に対比される低比抵抗が分布し、三畳系との接触部に当たる C7-50~80 付近の深部と C7-110~140 付近の深部には 10Ωm 以下の低比抵抗異常があり、C7-80~100 付近の深部にある 100Ωm 以上の高比抵抗異常によって分断されている。

低比抵抗異常を分断する断面中央部の高比抵抗異常に沿って、5mV/V 以上の弱い分極率異常がある。このような比抵抗と分極率の配置は昨年度に調査したブキル鉱山跡周辺に類似しているが、分極率異常はかなり弱い。また、ブキル鉱山跡周辺でのボーリング結果から推測すると、低比抵抗異常は導電性の水分を含んだ砂層である可能性を示唆している。

・ C9 断面 (図 63)

調査地中央部を通して北西側丘陵部から南東側平野部へ横断する断面である。断面中央部の C9-40 から丘陵側は 100Ωm 以上の高比抵抗を示すが、ピーク部の C9-10~20 付近の浅部は 50Ωm 以下の低比抵抗となっている。第四系に覆われる断面南東端は 10Ωm 以下の低比抵抗異常となっている。断面中央部の深部にも 10Ωm 以下の低比抵抗異常があり、C7 断面中央部と同じような導

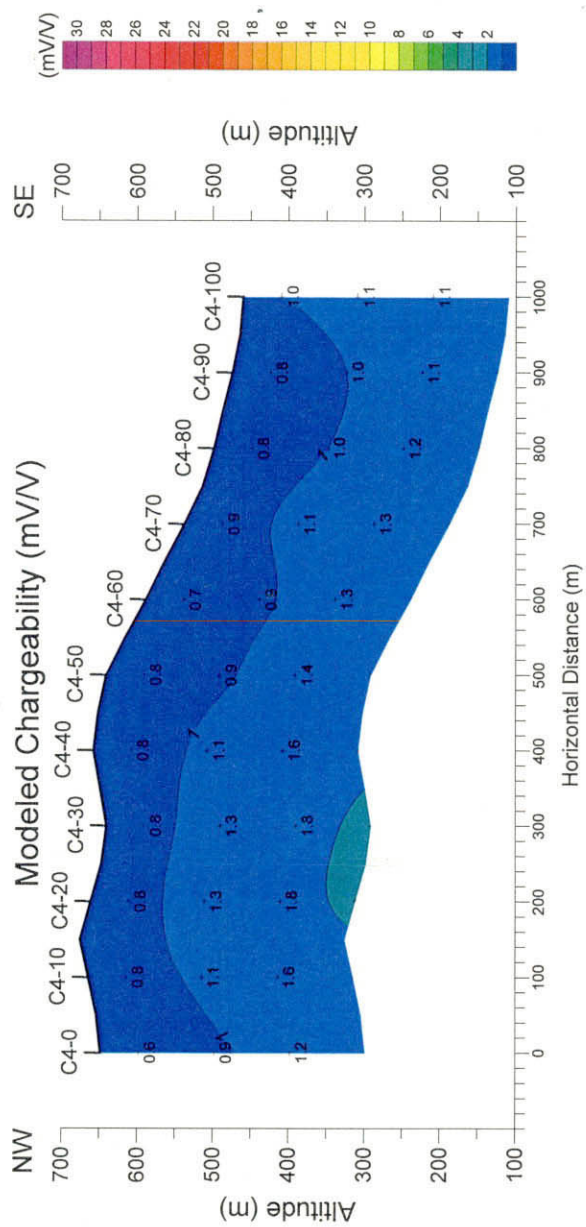
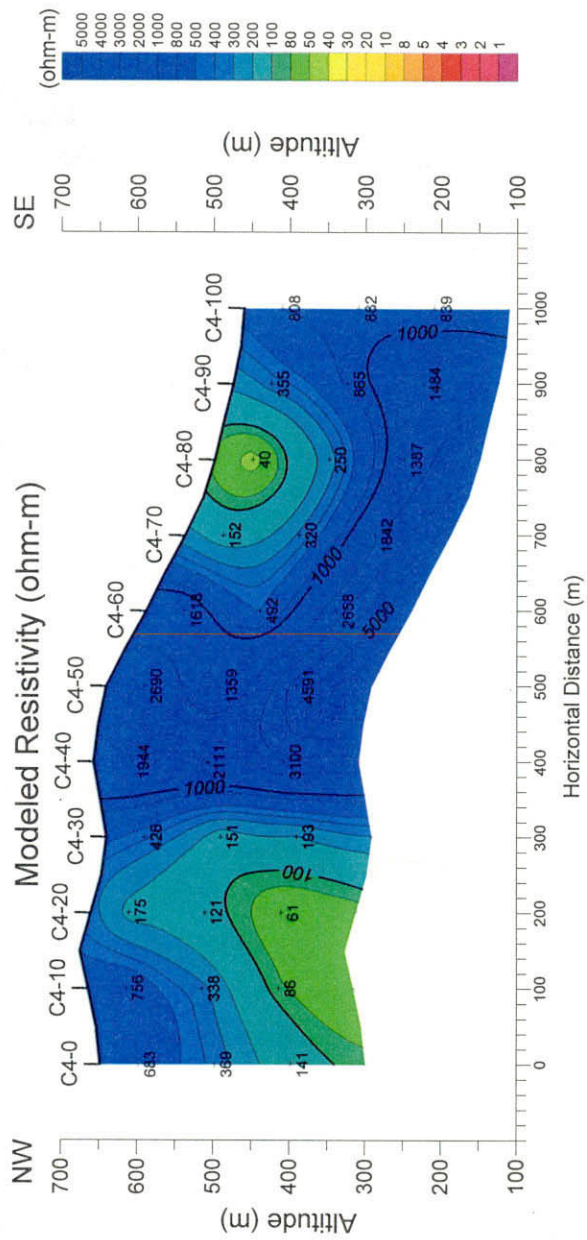


図 60 比抵抗・分極率シミュレーション断面図 (測線 C4)

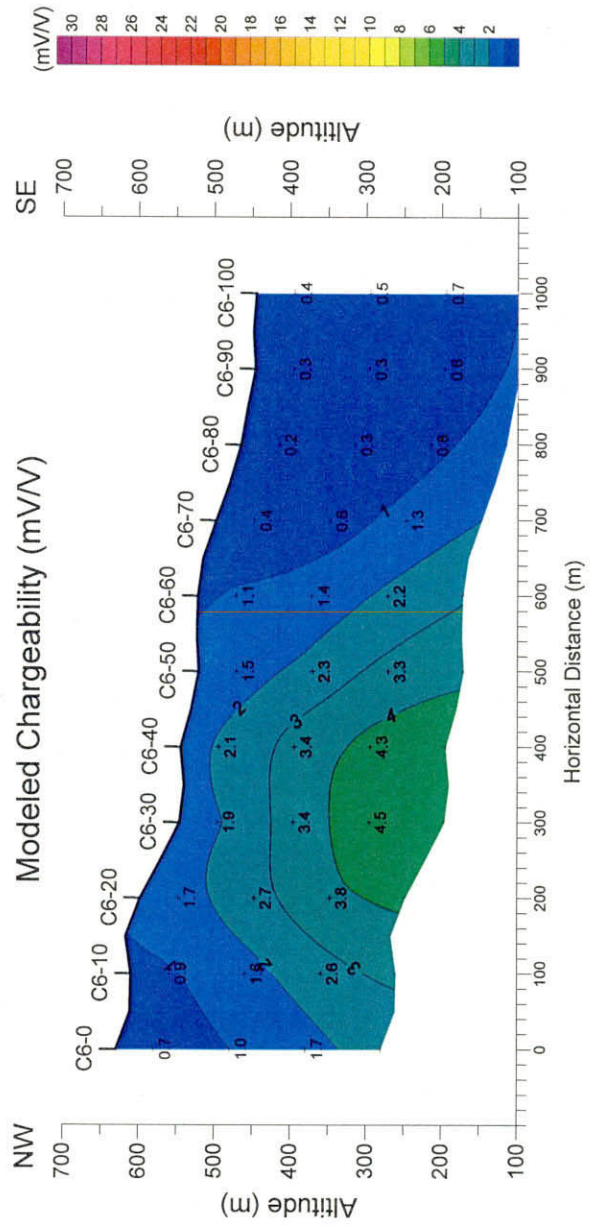
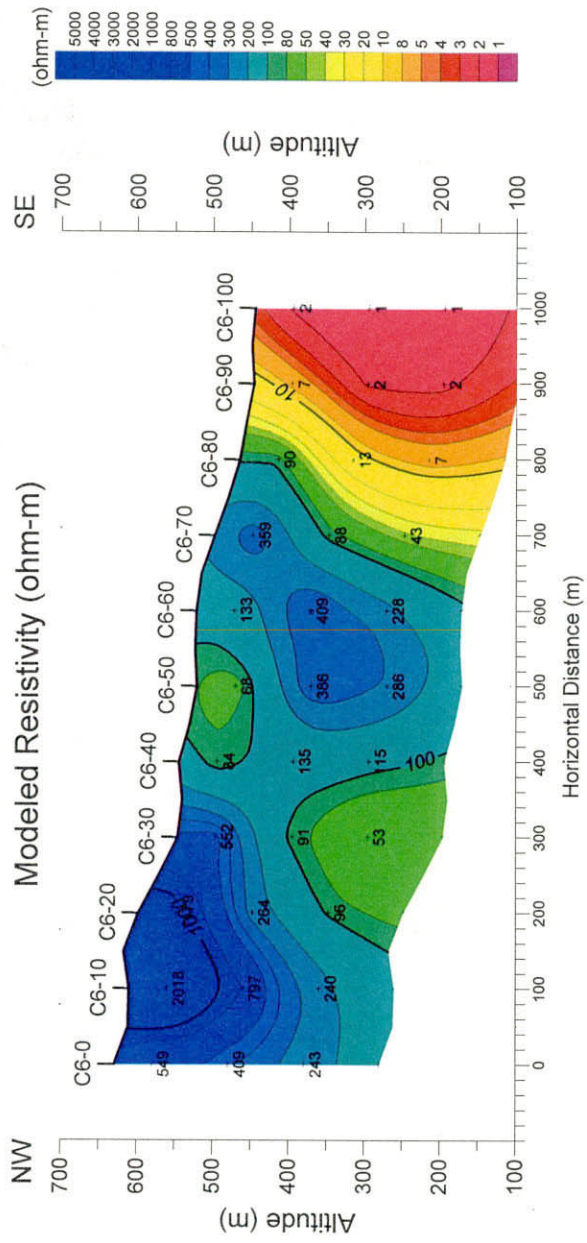


図 61 比抵抗・分極率シミュレーション断面図 (測線 C6)

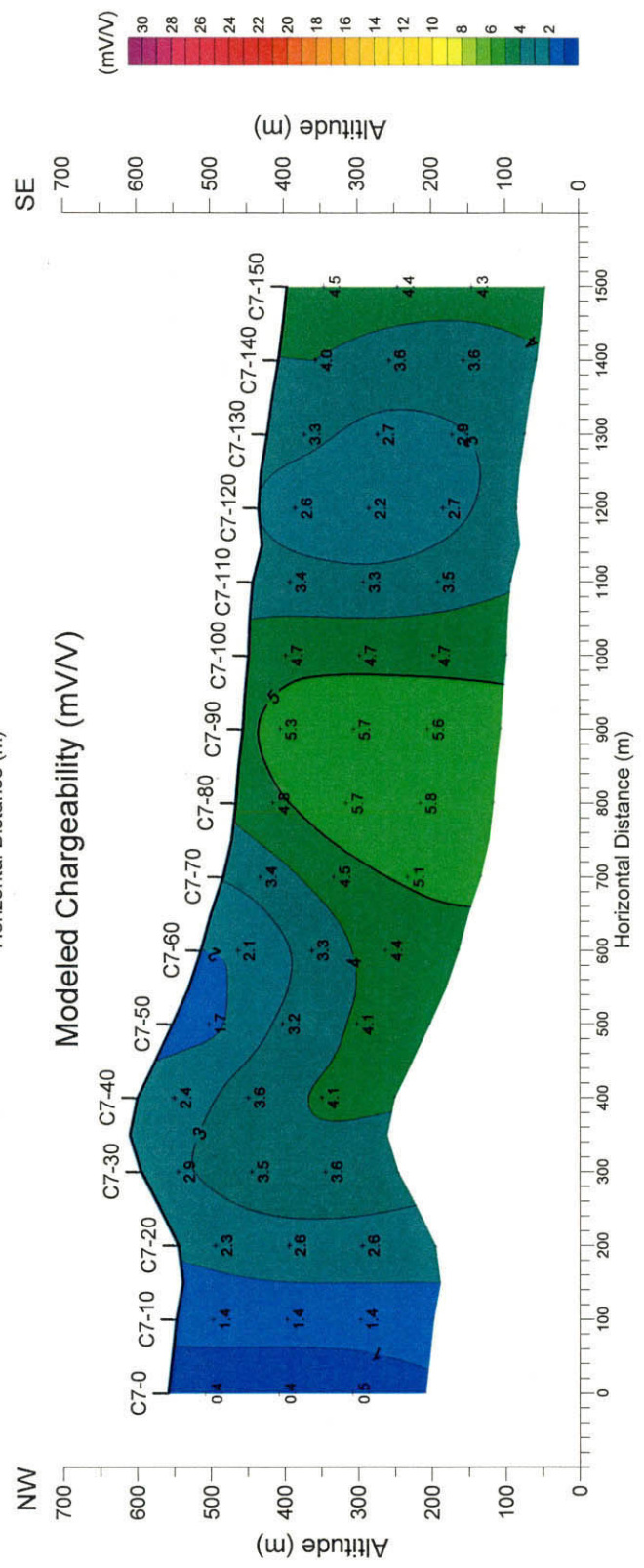
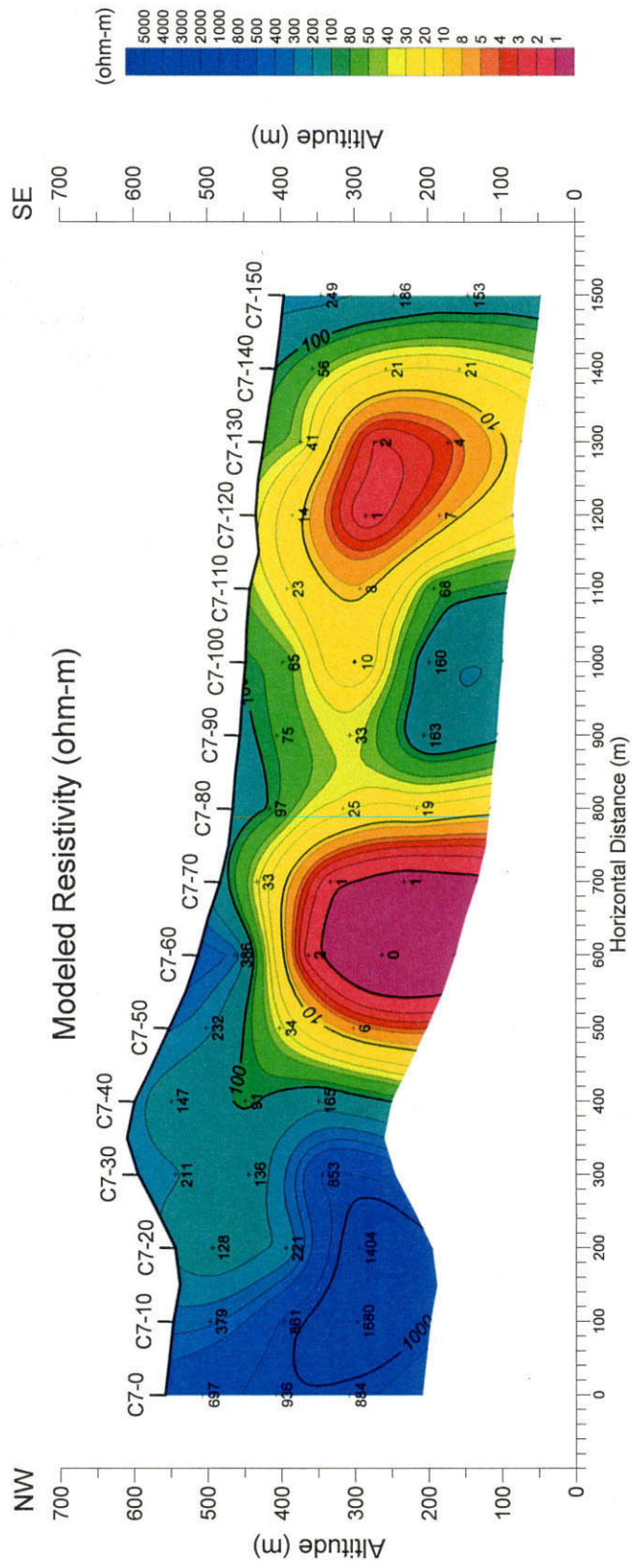


図 62 比抵抗・分極率シミュレーション断面図 (測線 C7)

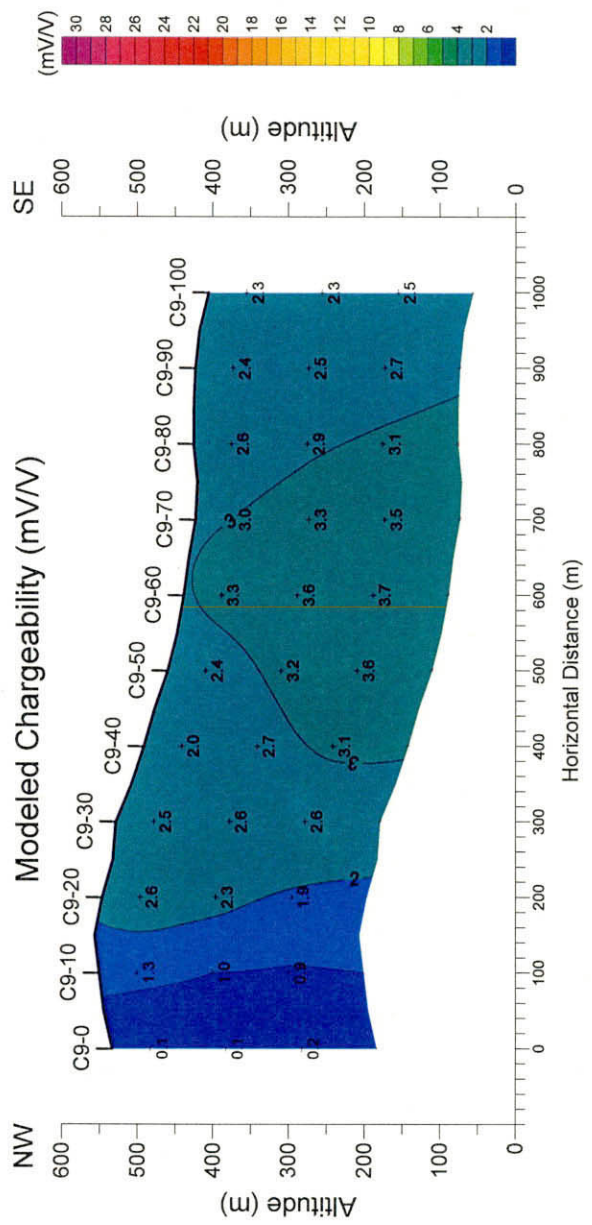
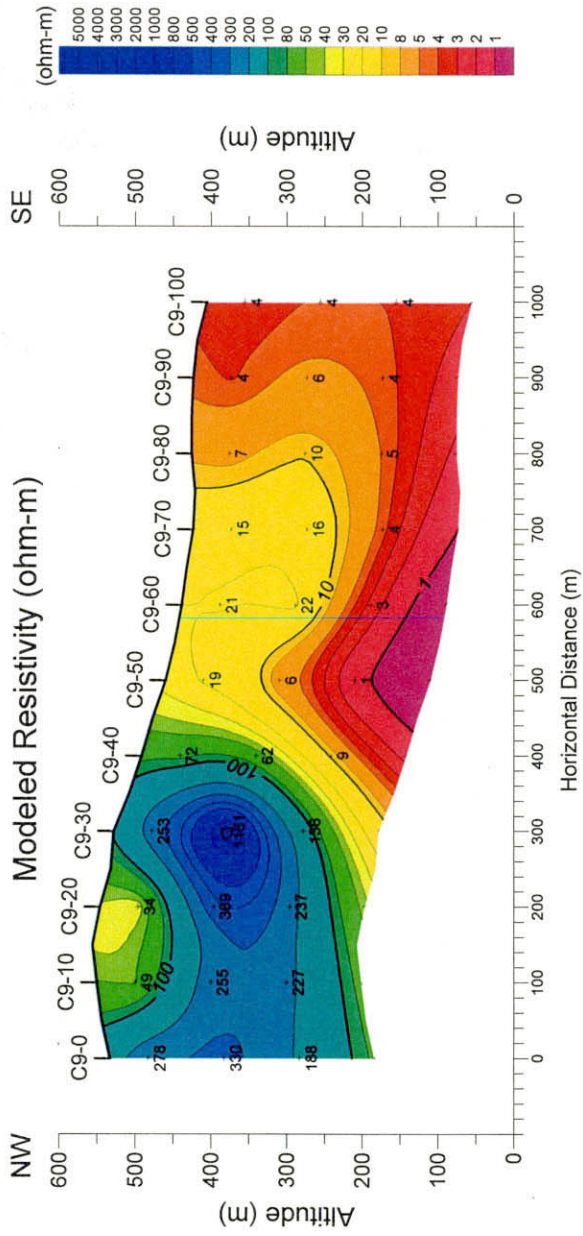


図 63 比抵抗・分極率シミュレーション断面図 (測線 C9)